
アディオス・ノニーノ～さようなら、お父さん～

アイリーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アディオス・ノニーノ〜さようなら、お父さん〜

【Nコード】

N2946R

【作者名】

アイリーン

【あらすじ】

広島に住む女の子が好きになったのは、外国の本物の王子様だった。それも、次期国王となる高貴な男性。彼女の想いは届くのか？そしてそれが実る時、彼女は愛する家族と愛する男性のどちらを選ぶのか？これは、円城寺マキ先生の作品『プライベート・プリンス』をベースにした、真実になるかもしれない物語です。ハッピーエンドになります。ウィリアム王子とケイトさん、結婚おめでとう

第1話 前書き(前書き)

主人公

・工藤真希、24歳。広島県在住の女の子。アスペルガー（自閉症）の高知能バージョン」という障害を持っている。

・ギョーム・ルイス・クリスチャン、28歳。ハンストヘテルブルクの公太子。

などなど他多数出てきます。この小説は連載ですので、応援よろしくお願いします。

第1話 前書き

私は日本の広島に住む24歳の女の子。

私は今、大きく重大な選択を迫られている。

それ次第では、愛する家族か愛する人がどちらかを選ばなければならず、

選ばなかった方とは、永遠の別れが待っている。

もう、会えないのだ。私の愛している父親と……

そんな私達を救ってくれたのは、私の愛する彼の母親だった。

彼女もまた、私と同じ想いをして海を渡ったことを知る。

そして、自分の家族や愛する人の家族に、彼の国民に支えられ、支持されて……

私は、海を渡ることにした。

アディオス・オニーノ〜さようなら、お父さん〜

第2話 大切なのは・・・（前書き）

こないだ始めたばかりの小説ですが、どなたかがお気に入り登録をしてくれていました。思わず「あり得ない！！」と思ってしまいました。とっても嬉しいです。感想などどしどしお待ちしております。

第2話 大切なのは・・・

彼と出会った時、私はなんのことだかわからなかった。

あり得なかった。

だって、私美人じゃないし、障害をもってるって言ったら、

みんな手のひらを返したように離れていくだけだった。

でも、彼は違った。

「そんなの関係ない。

ボクに近づいてくる女性は外見だけを磨く人が多いが、君は違う。

君は心の底から人を愛し、慈しみ、人の悲しみに共感できる素晴らしい心の持ち主だ。

仮面をかぶって称号欲しさに近づく人よりも、

君みたいな純粹で綺麗な心の持ち主が、ボクは好きだよ。

障害なんて気にしないから。

ね？大丈夫。ボクがいつまでも側にいて支えてあげる。

君の悲しみ、痛みをボクが代えてあげる。

だから、一緒に行こう。ボクと未来を生きよう。

今度の日曜日、いつもの場所で待ってるから・・・」

そんな手紙が届いたのは、そんな不安な私の心境を察したかのようなタイミングだった。

そして、私は彼に自分の気持ちを伝える為に彼の国へ向かった。

しかし、後に大変な事態が私たちを待っていたなんて、誰も予想できなかった。

第3話 夢のような

そして、日曜日…

(ハンストへテルブルク国内某所)

私は彼より早く着いた。その場所は、美しい噴水のある緑豊かな公園で、野鳥たちが心地よい鳴き声を聞かせてくれていた。

(本当に来るのかしら……?)

そんなことを考えていると、後ろから待ち望んだ声が聞こえた。

「真希!! 待った?」

その姿を見て、私は思わず言葉を失ってしまった。

凛々しさ、高貴さ、生まれもつての特別なオーラ。世界中の女性が憧れる存在。

そんな人物が、今私の目の前に立っている。

「…………王子様みたい／＼／」

羨望の眼差しで見つめる。

彼の白い八重歯がキラッと光る。

「そりゃあ、ハンストヘテルブルク公国王室のファミリーですから、お嬢さん？」

そう言い、彼は私の手を優しく取る。

「止めてよ／＼／私、あなたが思う望むような女性じゃないんだから！…！」

私は…………洗練された彼に相応しい女性じゃあない…………

障害

それは、ロイヤルファミリーには加わってはならない。

いや、普通の家庭にもその血が加わることも嫌がられるだろう。

彼との未来を想像すると、思わず涙が出る。

「嫌、かな…………？」

「うっん！…そうじゃないの！…とても不安で……」

彼は私をいきなり抱き締めた。

ふぁっつと温かく甘い匂いがする。

自然と涙が止まる。

「ありがとう……私でよければ……これからもよろしくお願いしま
す！…」

木々の木漏れ日の間を談笑をしながら歩く。

とても嬉しく幸せなひと時。

夢みたい……こんな日々が永遠に続いたら……

カシヤ

カシヤ

私たちは気づかなかった。その時、試練への序章が始まっていたこ
とに……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2946r/>

アディオス・ノニーノ～さようなら、お父さん～

2011年10月5日17時40分発行